

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

福山市立向丘中学校区	校番 22	福山市立高島小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月17日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着に向けて、学校と家庭が同じように支援ができるよう取組の共有をしてほしい。 「学習とスマホ」についての学校と地域、家庭の情報共有を行うとともに、継続して情報の発信をしてほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事や各取組において、生徒が仲間と挑戦したい内容を協議し、全校で実現に向かう姿が見られる。 学習に粘り強く取り組む生徒が増えてきた。 様々な状況が要因となり、長期欠席児童生徒が増えた。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざすこども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>主体性、自己理解、課題発見・解決力</p> <p>人とのかわり合いを大切にし、学ぶ意欲を持ち、自分の生き方を主体的に考える子ども</p> <p>○自校の取組を深く理解し、自主性・主体性を発揮し、「子ども主体の学び」の実現に向けて取り組む。 ○各校の実践や研究についての交流を深め、職員の主体性の向上や意識改革のきっかけとする。 ○お互いの具体的な実践の交流から課題意識、自己研鑽の意欲を持ち、個人的に授業参観、放課後の相談等、教職員が起点となる研修を推進する。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>『しなやかでたくましい心と実践力を育てる』 ～学びを鍛え 心を鍛え 体を鍛える～</p>	<p>現状</p> <p><児童生徒> ○自ら目標を立て、それに向かって取り組むことができる児童が多かった。 ○授業や児童会活動での話し合いを通して、自己の課題を見つけ、振り返りを行うことができている。 ● 目標に向かって途中であきらめず、チャレンジしようとする児童が少ない。</p> <p><授業> ○研究教科を中心に、導入を工夫し、児童がこれまでの学習経験や生活経験と結びつけながら疑問を持ち、解決していけるようにした。また、振り返りを通して、授業の前と後で成長できたと思える児童が増えた。 ○図画工作科(鑑賞)の授業で、鑑賞の視点を取り入れたところ児童の中で、鑑賞の仕方が深まった。 ● 自分の意見を根拠(理由)をもとにわかりやすく表現することができないため、友達や先生に自分の思いを伝えることができにくい児童が多い。</p>
-------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

育成する力 資質・能力	「言語能力」	「自己有用感」	「自己実現力」	
めざす子ども像	1年 2年	<ul style="list-style-type: none"> 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 自分の考えを理由とともに相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えや良さ・違いを認めることができる。 自分の言葉で伝えたことや自分の良さが他の人に認められていると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> なりたい自分について目標を立てることができる。 各教科の学習を通して、自分の良さや得意なことが分かり、自分のやりたいことを見つけることができる。
	3年 4年	<ul style="list-style-type: none"> 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。 理由や事例などを挙げながら、伝えたいことの中心を明確にして説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級や集団のために役割を果たす友達を認めることができる。 自分が学級の中で考えたことが学級みんなに受け入れられていると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の中で見つけた自分の考えや他者の意見を踏まえ、課題に対する具体的な解決方法や取組を考え、行動することができる。 集団の中での自分の役割を自覚し、行動することができる。
	5年 6年	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながらやりとりし、自分の考えをまとめることができる。 目的や意図に応じて根拠を明確にし、筋道を立てて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や学級、集団のために何ができるか話し合う中で、友達を認めることができる。 自分が学校や学級、集団の中で欠かせない存在であると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習を通して、自分が決めた取組を実践し、目標達成のために必要に応じて協働し、改善を重ねながら、粘り強く取り組むことができる。 自分の良さや集団の中での役割を踏まえて、自分の将来像に向かってチャレンジする。
研究	テーマ	理科、図画工作科		
	内容等	感じ 考え 実感したことを自己表現できる児童の育成 ～「なぜだろう?」「やりたい!」「なるほど!」「分かった!」「できた!」と児童が主体的に考えたい導入の改善工夫～		
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりポートフォリオ」を活用した、授業改善のマネジメントサイクル 既習事項や生活経験を踏まえた導入の工夫・必然性のある思考・説明の場づくり 自分の意見を上手に伝えることができる方法の提示 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)		
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価
3	自己を理解し 学ぶ意欲を持 ち続け主体的 に考え、伝え られる児童の 育成	★	継 続	<ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりポートフォリオ」を活用し、算数科の学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりポートフォリオ」を活用し、生活場面と結び付け、問題場面を絵や図に表すよう指導方法を工夫する。 ①図②文で図の説明③式④答えの順でノートに書けるように指導する。図の意味を言葉にできるように、「何を求めたいか」「どの数字を使うか」をつなげて説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期末テストにおいて、クラス平均を83%以上にする。 						
				<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法で自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図画工作科の鑑賞会を通して、工夫した点や友達の良かった点を伝えることで、わかりやすく相手に伝えることができるようにする。 言語カードを精選し、児童同士の交流が活弁になるように自己表現したり、相手に伝えたりすることができるようにする。 系統性を意識して指導ができるように、教師同士で児童の作品を評価する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートを実施し、「自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる」の肯定的評価を85%以上にする。 						
3	児童が体力の 向上を実感で きる指導方法 の工夫・改善		継 続	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果から、自らの体力の課題を見つけ、運動量を確保した授業改善を行うことで、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題のある2種目に関する動きを取り入れた準備運動を行う。 技や動きの見本を見せたり、自分達の姿を撮って振り返りの活動を行ったりするために、ICTを活用した授業を行う。 体育の授業前に、サーキット運動を行うことで、基礎体力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題のある2種目が、1回目よりも上回った児童を83%以上にする。 						
5	働き方改革を 推進し、教職 員が元気で意 欲を持ち働く 職場づくり		★	継 続	<ul style="list-style-type: none"> 教職員がやりがいを感じながら業務に取り組み、教職員見が互いに意見を言いやすい職場づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を出し合い業務を見直す場を適宜設定することで、業務の効率化を図る。 毎月の学校衛生委員会での意見交換を通じて、教職員一人一人の意見や声を職場に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」「職場の働きやすさを感じている」の肯定的評価を70%以上にする。 					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。